

研修視察報告書

令和6年11月13日

〔会派名：自由クラブ〕

代表者氏名	山下 登	記録者氏名	柏 元三
視察者氏名	柏 元三		
視 察 日	令和6年11月8日（金）		
視 察 先	金沢市文化ホール		
目 的	全国コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢出席		

視察概要

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組について金沢市をはじめとする全国の実践研究等から学び、考え、意見を交わすことにより、子供の幸せを願う全ての大人が当事者として実効性ある取組を重ね、持続可能な社会の創り手の育成にも資する「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を進めることを目指す研究大会。

- 1、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取り組みの中で放課後子ども教室がどのように位置づけられて運営されているのか？一番の関心事であった。放課後子ども教室を基盤として地域学校協働活動が設置された。国の補助が70数億（年度毎若干上下）の約90%が放課後子ども教室に割り当てられており、中核を担う放課後子ども教室抜きでは地域学校協働活動を論じることができないと思っていたが、放課後子ども教室は切り離されていた。
- 2、放課後子ども教室を実践している愛知県瀬戸市の発表でも、放課後子ども教室抜きの地域学校協働活動が発表された。
- 3、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取り組みの中身を見るとコミュニティ・スクールが伝統的に地域と連携してきた行事や活動の焼き直しのなもので、活動内容そのものは新鮮味に欠けていた。



《コミュニティスクールに関して大きな収穫》

- 1、コミュニティスクールは子どもたちの育成に素晴らしく効果のある仕組みであり、持続することが重要である。しかし、油断をすると形骸化してしまう。コミュニティスクールを形骸化させないためには「常に刷新」すべきである。
- 2、金沢大会のテーマ「コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的運用」の発表内容には、コミュニティスクール活動の刷新が顕著に現れていた。コミュニティスクールを刷新するためには地域学校協働活動との一体化が不可欠と思えた。
文科省の子ども政策は随時進化しているが、名張市は文科省の政策が理解できておらず、多くのコミュニティスクールが形骸化しているように思える。地域学校協働活動の制度を学習して取り入れる必要を痛感した。
- 3、コミュニティスクールには国の補助金がほとんどつかないため、学校運営協議会委員の活動は無償ボランティアによるが、他方地域学校協働活動のコーディネーターと推進委員には時間給が支払われる。(この件には誰も触れないが) そのため、ボランティア活動が有償化されることにより協力者を得やすくなったのが大きな要因と思われる。
- 4、教育委員会に所属して6年間勤めている瀬戸市の統括コーディネーターは推進員を34人確保した。方法は、地域の出会いに参加して草取りをしたり、地域の行事に参加して地域の人たちと親しくなり信頼を得て、情報を集め、目ぼしい人の勧誘に成功している。(瀬戸市教育委員会)
- 5、瀬戸市は、地域学校協働活動推進員の会合を月1回開催し、課題発見問題解決を議論し、外部の専門家による講義・勉強会を実施している。(資質・やる気向上)
- 5、教育委員会担当者の、子どもたちのためにコミュニティスクールを充実させたいという熱意が第一前提と言える。
コミュニティスクールを制度化するだけで、学校に「丸投げ」して、活動実態さえ把握できない教育委員会ならば、「形骸化」するのは必定。
(名張市教育委員会?)
- 6、教育委員会の姿勢の在り方に加えて、校長のやる気と地域に熱意のあるリーダーがいれば、コミュニティスクールは必ず中身の濃いものとなり、成果が子どもたちに反映され、地域にも影響を及ぼす。(金沢市金石小)
金沢市教育長はコミュニティスクールに精通していた。
- 7、名張市の多くのコミュニティスクールには原点からの間違いが見られる。
形骸化以前の問題と思う。何が間違っているのか。このことを気付くためには、教育委員会がコミュニティスクールについて学ぶことから始めるべきと思う。

